

はたらきかた 改革通信2025



0 5 2026-02-17

☆「武田教育長と本音で語ろう働き方改革」in佐久市立佐久城山小学校

令和7年12月24日、佐久市立佐久城山小学校で、先生方の忙しさや負担感、そして働きがいについて、日々の校務の中で感じていることを踏まえながら教育長と本音で語り合う懇談会「武田教育長と本音で語ろう 働き方改革」が開かれました。

佐久城山小学校では、「自己実現に向かう子ども」を育む学校経営の方針とし、子どもも大人も自己決定を大事にした学校づくりを進めています。その核となるのが、先生方が気軽に集まって学びを共有する研修「SAT (Staff Amazing Training)」。

この「SAT」を生み出すために、一単位時間等を見直し、児童の下校時刻を40分早め、放課後の『先生の時間』を確保しています。そして、共通理解を土台にしなが、個々の課題意識を原動力とし、働き方改革の本丸である授業改善を中心に据えた取組が行われています。

■教職員の忙しさや負担感、働きがいとは？～先生方それぞれの思いを語っていただきました～

先生方の退勤時間が早くなっているが、決まった先生が遅い現状あり

新しい取組が増える一方、減らされる業務がなく負担が増大も

高校事務のように事務室の組織化・複数配置を

育休復帰者の支援体制(伴走支援・非常勤サポートなど)があれば…

教務主任のフリー化を

特別支援・学年業務・会議などが積み重なり、常にエマージェンシー状態

算数専科(中学年専科等)の配置、ありがたい

変わることは大変だが、チャレンジするのは楽しい。この学校だからこそできたこと

忙しいが「教師を育てる」環境が城山小にはあるので、安心して仕事ができる

4年目になり、充実や成長を感じるが、仕事にかかる時間も増えている。そこにストレスは感じていないが…

若手教員の授業づくりをもっと支えたいが時間が足りない

より質の高い授業づくりをしたいが、物理的時間が足りない

自分がやりたい学級づくりをするためには、多くの時間がかかることを実感



多役職で心身の限界を感じる

研究主任の業務は大変だが、改革が進み、学びが深まっていく充実感がある

研究にエネルギーを費やすために自分の時間の確保が必要

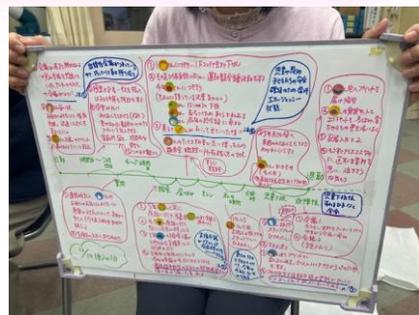
みんな忙しいが「心のゆとり」を持てる環境づくりを

業務改善にかかわること

授業改善にかかわること

先生方の声を受けて～武田教育長より～

- ・教員の無理な献身に依存しない仕組みづくりが大切。
- ・先生が幸せでないと子どもは幸せにならない。
- ・失敗してもいいからやってみることができる人であれ。
- ・特別支援コーディネーターの専任化など、既に多方面から要望あり。
- ・通知表や懇談会削減、授業時間の見直しなども視野に。
- ・国への加配要求など制度的にできる働きかけを続けていく。
- ・育休復帰後のサポートについては、研究を進めたい。



一日の勤務の様子を「見える化」し、示してくださった先生もいらっしゃいました

☆「教職員の働きがいとは」～働き方改革シェアミーティング#04を行いました

令和7年12月、今年度最後となる「第4回 働き方改革シェアミーティング」を開催しました。今回のテーマは「教職員の働きがい」。回を重ねるごとに参加者が増え、今回は小・中学校はもちろん、市町村教育委員会をはじめ、関係団体、報道関係者など、県内外の多様な立場の皆様にご参加いただき、活発な意見交換が行われました。

さまざまな視点や経験を共有いただいたことで、各学校における働き方改革をさらに進めるための貴重なヒントを得る機会となりました。

「教職員の働きがい」とは

■働き方改革のポイント

・「働きやすさ」と「働きがい」の両方が大事
・どちらかに偏ると、「しんどさ」や「やりがい喪失」に

■「働きやすさ」って？

○無理せず安心して働ける状態のこと

[たとえば]
・無理のない仕事量や負担 ・目的が見通しがある
・休みを取りやすい環境 ・気軽に相談できる環境
・集中できる時間や環境 など

★制度だけでなく、「使っているよ」という職場の空気が大切

■「働きがい」って？

○子どもの成長に関わることができるとの喜びが中心
※ただし、良かれと思って頑張りすぎると自分を追い込んでしまうことも

[具体的には]
・子どもの成長に立ち会えること
・誰かの役に立っている実感
・自分の成長、授業を組み立てる成就感
・チームで成し遂げる一体感、
・新しいものをつくること
・自身の成長や存在意義を感じる など

■「働きやすさ」と「働きがい」のバランス関係

働きやすさ		働きがい		状態
低	高	低	高	
低	高	低	高	活き活き働ける
高	低	高	低	頑張りすぎて燃え尽きやすい
高	高	低	高	改善意欲なく「静かな離職」につながる危険性も

★学校はどうしても「働きがい」に寄りがち
★「働きやすさ」の土台づくりが特に重要！

■これから大切にしたいこと

○「働きやすさ」土台 「働きがい」エンジン
↓土台が弱いままエンジンを回すと壊れてしまう

★無理なところ、しんどいところを減らし（働きやすさ）、大事にしたいことを増やす（働きがい）

量（時間）だけを減らすのではなく、
みんなで「いい感じの状態」をつくる取組を

（グループミーティングにおける意見交換及びアドバイザー信州大学荒井先生のまとめ・助言より）

参加された方より



それぞれの立場からの声に共感できたことがうれしかった 🌸 様々な学校や県教委の取組を知り、PTAとして何ができるか考える機会になった 🌸 他県の取組を知ることができ、大変参考になった 🌸 事務職員やPTAの方々の参加に驚いた 🌸 参加を通して、参加者同士のつながりが生まれると感じた 🌸 時間帯が授業と重なり、担任は極めて参加しにくかった 🌸 業務分担や取捨選択など、学校内の体制を検討したいと思った 🌸 教員が自由に実践できる環境こそ「働きがい」につながると感じた 🌸 異なる立場ならではの知見や困りごとを知ることができ、有意義だった 🌸 教職員だけでなく、PTAや民間の方々とも対話できたことが大きな収穫だった

☆【働き方改革シェアミーティングスピノフⅣ「支援会議のアイデアを語りあおう」のご案内】

子どもたちの支援が広がる中、「会議が長い…」「時間外になりがち…」そんな声が増えています。

そこで今回は、県内の学校で実際に行われている

“無理なくできる支援会議”のアイデアを紹介！

みんなで工夫をシェアして、

🌟 来年度の会議をもっとスムーズに！

🌟 負担なく、もっとよい支援へ！

気軽に参加して、明日から使えるヒントを持ち帰りましょう！

事前申込なしでも
参加できます！

2.20（金）
15:30-16:45

Zoom

ID : 828 7267 5879

パスコード : 0220



申込はこちら



こんな時代だから、ワクワクしたい！！
これからの目指す姿
個人と社会の
ウェルビーイングの
実現

【発行】

長野県教育委員会事務局義務教育課

（担当：荒井、武内）

電話：026-235-7426

Mail : gimukyo@pref.nagano.lg.jp

学校の働き方改革等に
関する情報はこちら

長野県 教職員情報

